

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																				
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																																				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																				
学校法人片柳学園		平成25年3月1日		片柳 鴻		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																																				
分野	認定課程名		認定学科名			専門士		高度専門士																																		
工業	工科技術専門課程		一級自動車整備科			-		平成21年文部科学大臣 告示第25号																																		
学科の目的		二級自動車整備士より一層高度化した未来の自動車技術(自動運転・IoT・EVなど)に対応できる、高度整備技術・高度情報技術(IT)・環境保全技術を習得した「クルマを選ばない一級自動車整備士」、将来の整備技術コンサルタントを育成することを目的とします。																																								
認定年月日		平成26年3月31日																																								
修業年限		昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		講義		演習		実習		実験		実技																													
4		年	昼間	4109時間	1097時間				3012時間																																	
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																																
200人		95人		0人		4人		3人		7人																																
学期制度		■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日				成績評価		■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定																																		
長期休み		■学年始：4月1日～ ■夏 季：7月21日～8月31日 ■冬 季：12月23日～1月9日 ■学年末：3月18日～3月31日				卒業・進級 条件		進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																																		
学修支援等		■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。				課外活動		■課外活動の種類 人とくまのテクノロジー展見学、インターンシップ発表会、卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭、整備技術競技会など ■サークル活動：有																																		
就職等の 状況※2		■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 株式会社北海道プブ いすゞ自動車株式会社 セントラル自動車技研株式会社 株式会社ホンダテクノフォート 株式会社村内外車センター ■就職指導内容 就職ガイダンス、自動車メーカー研究会、自動車ディーラー研究会、各販売会社セミナー、インターンシップ実習など ■卒業者数 30 人 ■就職希望者数 30 人 ■就職者数 30 人 ■就職率 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 ： 100.0 % ■その他 ・進学者数： 0人 (平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)				主な学修成果 (資格・検定 等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報) <table><tr><td>資格・検定名</td><td>種別</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>職業訓練指導員</td><td>③</td><td>30人</td><td>25人</td></tr><tr><td>損害保険募集人基礎単位</td><td>③</td><td>30人</td><td>30人</td></tr><tr><td>B検2級</td><td>③</td><td>30人</td><td>19人</td></tr><tr><td>一級小型自動車整備士</td><td>②</td><td>30人</td><td>3人</td></tr><tr><td>二級ガソリン自動車</td><td>②</td><td>35人</td><td>34人</td></tr><tr><td>二級ジーゼル自動車</td><td>②</td><td>35人</td><td>31人</td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄							資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	職業訓練指導員	③	30人	25人	損害保険募集人基礎単位	③	30人	30人	B検2級	③	30人	19人	一級小型自動車整備士	②	30人	3人	二級ガソリン自動車	②	35人	34人	二級ジーゼル自動車	②	35人	31人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																							
職業訓練指導員	③	30人	25人																																							
損害保険募集人基礎単位	③	30人	30人																																							
B検2級	③	30人	19人																																							
一級小型自動車整備士	②	30人	3人																																							
二級ガソリン自動車	②	35人	34人																																							
二級ジーゼル自動車	②	35人	31人																																							
中途退学 の現状		■中途退学者 2 名 ■中退率 1.9 % (休学者2名含まず) 平成28年4月1日時点において、在学者103名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者99名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更・就職、経済的理由、病気療養・怪我治療、3年次進級要件未達 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。																																								

経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： ・片柳学園入学学金免除制度・片柳学園創立70周年記念奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生・IT資格特待生 ■専門実践教育訓練給付： ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日) 受審 http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/
当該学科のホームページ	http://www.neec.ac.jp/department/

(URL)

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3) 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（１）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

国土交通省が定める自動車整備士養成施設の基準に則り、幅広い高度な整備技術能力とビジネス感覚を身に着けた整備技術コンサルタントとしての人材を育成するため、４年間を通しインターンシップを含めた高度な実践的カリキュラムを学習していく。さらには環境保全や安全管理といった学習を通して、職場、地域に対しても先導的な役割を担うことのできる人材を育成することを基本として適時編成委員会を開催し授業内容等についてや企業から求められる人材育成を目的として企業ヒヤリングを行い、授業内容および改善を行うとともに、企業等より実習の授業及び教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。またインターンシップ時等に企業訪問を行い、企業からの要望を伺い実務教育に生かしていく。

（２）教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各３名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。

（３）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
高橋 孝司	東京都自動車整備振興会 八王子支部支部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（１年）	①
堀上 則夫	株式会社紅オートサービス 会長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（１年）	③
坂本 康将	インプロブ株式会社 アフターセールス部マネージャー	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（１年）	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（１年）	
高地 昭彦	日本工学院八王子専門学校 科長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（１年）	
清水 拓也	日本工学院八王子専門学校 主任	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（１年）	
洲川 達也	日本工学院八王子専門学校 係長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（１年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（１企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（４）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年 ２回

（開催日時）

第１回 平成29年3月2日 教育編成委員会（分科会） 13：00～16：00

第２回 平成29年8月31日 教育編成委員会（分科会） 15：30～17：30

（５）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

一級自動車整備科４年次において、各委員から提案されたプレゼンテーション能力やPC活用能力などのビジネススキルに対して、サービスマネジメント科目の中で取り組み、インターン実習科目終了後に企業や編成委員、一級自動車整備科１・２・３年次の学生に対して、インターン発表プレゼンテーションを実施した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係																	
（１）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 国土交通省が定める自動車整備士養成施設の基準に則り、企業が求める人材として身につけるべき知識・技術・ビジネスマナーの課題のヒヤリングを行い、実習内容の検討を行う。																	
（２）実習・演習等における企業等との連携内容 (株)赤岡自動車修理工場の赤岡氏に２年次実習２科目、１年実習２科目にて連携し、現在の整備作業の傾向に合わせ、自動車業界の知識、現場での実践力などの基礎技術を中心に企業目線による企業が求める人材育成を行い、それを基に評価を受けている。また、適時ヒヤリングを行い学科へのフィードバックもおこなっている																	
（３）具体的な連携の例※科目数については代表的な５科目について記載。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>科 目 名</th><th>科 目 概 要</th><th>連 携 企 業 等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電装整備実習基礎１</td><td>自動車の電気装置に関する電子電気技術の基礎について実習を通して学びます</td><td>(株)赤岡自動車修理工場</td></tr> <tr> <td>電装整備実習基礎２</td><td>自動車の電気装置に関する整備技術の基本を作業を通して学びます</td><td>(株)赤岡自動車修理工場</td></tr> <tr> <td>シャシ整備実習１</td><td>実習車両を使用して、ブレーキやサスペンションなどのシャシに関する整備技術を作業を通して学びます</td><td>(株)赤岡自動車修理工場</td></tr> <tr> <td>シャシ整備実習２</td><td>ブレーキやサスペンションなどのシャシ整備に関する技術をより実践的に作業を通して学びます</td><td>(株)赤岡自動車修理工場</td></tr> </tbody> </table>			科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等	電装整備実習基礎１	自動車の電気装置に関する電子電気技術の基礎について実習を通して学びます	(株)赤岡自動車修理工場	電装整備実習基礎２	自動車の電気装置に関する整備技術の基本を作業を通して学びます	(株)赤岡自動車修理工場	シャシ整備実習１	実習車両を使用して、ブレーキやサスペンションなどのシャシに関する整備技術を作業を通して学びます	(株)赤岡自動車修理工場	シャシ整備実習２	ブレーキやサスペンションなどのシャシ整備に関する技術をより実践的に作業を通して学びます	(株)赤岡自動車修理工場
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等															
電装整備実習基礎１	自動車の電気装置に関する電子電気技術の基礎について実習を通して学びます	(株)赤岡自動車修理工場															
電装整備実習基礎２	自動車の電気装置に関する整備技術の基本を作業を通して学びます	(株)赤岡自動車修理工場															
シャシ整備実習１	実習車両を使用して、ブレーキやサスペンションなどのシャシに関する整備技術を作業を通して学びます	(株)赤岡自動車修理工場															
シャシ整備実習２	ブレーキやサスペンションなどのシャシ整備に関する技術をより実践的に作業を通して学びます	(株)赤岡自動車修理工場															
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係																	
（１）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。																	
（２）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 ・平成29年8月3日（木） 13：00～15：15 八王子キャンパス自動車整備実習場において、日産自動車主催による「GTR技術講習」受講 ・平成29年8月4日（金） 9：00～17：45 マツダR&Dセンター横浜にてマツダ(株)主催の「マツダSKYACTIV技術セミナー」受講 ・平成29年8月8日（火） 10：00～16：20 いすゞプラザ（藤沢）において、いすゞ各販社主催「いすゞグループメカニズム学習会」受講 ・平成29年8月8日（火） 9：30～13：00 日産自動車追浜テストコースにおいて日産自動車主催の「日産ワクテク試乗会」受講 ・平成29年8月30日（水） 8：30～19：30 トヨタ交通安全センターにおいて神奈川トヨタ自動車主催の「モビリティ研修会」受講 ②指導力の修得・向上のための研修等 ・平成29年3月27日（月） 14：00～16：00 蒲田キャンパスにおいて、日本工学院主催の「非常勤講師連絡会」受講 ・平成29年3月28日（火） 10：00～17：00 八王子キャンパスにおいて日本工学院主催の「専任教員研修会」受講 ・平成29年8月29日（火） 10：00～17：00 蒲田キャンパスにおいてKEIアドバンス主催の「専任教員研修会」受講 ・平成29年8月1日（火） 9：30～16：00 八王子キャンパスにおいて日本工学院主催の「テクノロジーカレッジ夏期教員研修会」受講																	
（３）研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 ・平成29年9月28日（木） 13：30～16：00 八王子キャンパス一級整備実習場において、マツダ(株)、各販社における「マツダセミナー」開催予定 ・平成29年10月25日（水） 9：30～16：30 八王子キャンパス自動車整備実習場において、関東三菱自動車販売主催の「三菱新技術講習会」開催予定 ・平成29年11月24日（金） 16：40～18：40 八王子キャンパス一級実習場において、(株)スズキ自販南東京主催の「スズキ技術講習会」開催予定 ・平成29年12月21日（木） 9：30～16：30 八王子キャンパスにおいていすゞグループ主催の「いすゞ自動車グループ大型車両メカニズム学習会」開催予定 ②指導力の修得・向上のための研修等 ・平成30年3月 日本工学院による研修予定																	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。
また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

社会環境が多様化している中で専門力＝教育力とは限らないので、教員の研修に注力してもらいたいのご意見から、研修体制を整え内容の精査を行う。SNSのマナーに関して、社会的にも問題になっていることから指導強化していく。また、教員の労働環境改善、メンタルケアなどサポート等の充実が必要とのことから、「ヘルスサポートセンター」等の学生および教員のサポート体制の充実を検討している。なお、今年度から教員の変形労働時間制度を導入し労働環境の改善をはかっている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	卒業生／IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	地域関連
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
オ丸 大介	株式会社カオルデザイン 企画推進室 室長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
一瀬 康剛	株式会社アトム精密 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野ハートクリニック 事務長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	医療 企業等委員
榊原 直哉	八王子市私立保育園協会 (藤井保育園副園長)	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() 平成29年9月2日
URL : <http://www.neec.ac.jp/announcement/23390/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、平成28年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/23390/>

授業科目等の概要

(工科技術専門課程 一級自動車整備科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ビジネススキル	仕事についての基礎知識などを養い、ビジネス能力を総合的に高めるためのトレーニングをします。	1・前	34	2	○			○		○		
○			自動車基礎	自動車の仕組み・構造・構成部品についての基礎を学びます。	1・前	134	8	○			○		○		
○			自動車整備機器	自動車整備に使用する機器工具及びその使用方法について学びます。	1・前	34	2	○			○		○		
○			自動車技術	自動車を構成しているエンジン・シャシ・電子電気装置の部品・構造・機構・動作原理について学びます。	1・後	100	6	○			○		○		
○			自動車整備基礎	自動車の仕組み・構造・構成部品についての基礎を学びます。	1・後	67	4	○			○		○		
○			エンジン整備実習基礎1	ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンの整備技術の基本を、作業を通して学びます。	1・前	78	2			○	○		○		
○			エンジン整備実習基礎2	ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンの整備技術を、作業を通して学びます。	1・後	78	2			○	○		○		
○			シャシ整備実習基礎1	ブレーキやサスペンションなどのシャシ整備に関する基本技術を、作業を通して学びます。	1・前	78	2			○	○		○		
○			シャシ整備実習基礎2	ブレーキやサスペンションなどのシャシ整備に関する技術を、作業を通して学びます。	1・後	78	2			○	○		○		
○			電装整備実習基礎1	自動車の電気装置に関する電子電気技術の基礎について実習を通して学びます。	1・前	78	2			○	○			○	○
○			電装整備実習基礎2	自動車の電気装置に関する整備技術の基本を、作業を通して学びます。	1・後	78	2			○	○			○	○
○			測定実習	自動車整備に必要な計測を、測定作業を通して学びます。	1・前	45	1			○	○		○		
○			工作実習	金属加工を通して、その性質や加工方法を学びます。	1・前	23	0			○	○		○		
○			自動車整備実習基礎	自動車のエンジン整備・シャシ整備・電装整備の基礎的な整備方法を作業を通して学びます。	1・通	89	2			○	○		○		
○			電子制御実習基礎	自動車の電子制御技術の基礎を実習を通して学びます。	1・通	58	1			○	○		○		
○			国家2級合格講座	二級自動車整備士国家試験合格へ向けた講座です。	2・後	17	1	○			○		○		

○		自動車工学	自動車のエンジン・シャシ・電子電気装置などの動作原理と部品について詳しく学びます。	2・前	100	6	○			○		○		
○		自動車整備技術	エンジン・シャシ・電子電気装置の整備方法を学びます。	2・前	67	4	○			○		○		
○		自動車総合技術	自動車の故障診断方法の基本など総合的な整備方法を学びます。	2・後	56	3	○			○		○		
○		自動車総合整備	自動車の故障診断方法の基本など総合的な整備方法を学びます。	2・後	67	4	○			○		○		
○		自動車検査基礎	自動車の検査方法の基礎を学びます。	2・後	23	1	○			○		○		
○		自動車整備法規基礎	自動車整備に関する法規の基礎を学びます。	2・後	23	1	○			○		○		
○		電子制御実習	自動車のエンジン・シャシを制御する電子制御の原理を具体的に学びます。	2・通	32	0			○	○		○		
○		エンジン整備実習 1	可動エンジンを使用して、ガソリンエンジンとディーゼルエンジンの整備技術を学びます。	2・前	78	2			○	○		○		
○		エンジン整備実習 2	可動エンジンを使用して、ガソリンエンジンとディーゼルエンジンの整備技術を、より実践的に学びます。	2・後	78	2			○	○		○		
○		シャシ整備実習 1	実習車両を使用して、ブレーキやサスペンションなどのシャシに関する整備技術を学びます。	2・前	78	2			○	○			○	○
○		シャシ整備実習 2	実習車両を使用して、ブレーキやサスペンションなどのシャシに関する整備技術を、より実践的に学びます。	2・後	78	2			○	○			○	○
○		電装整備実習 1	自動車の電気装置に関する部品の特性を理解することと、その電子制御装置の整備技術を実習を通して学びます。	2・前	78	2			○	○		○		
○		電装整備実習 2	自動車の電気装置に関する整備技術を、より実践的に学びます。	2・後	78	2			○	○		○		
○		自動車総合整備実習	実習車両を使用して総合的な整備作業について学びます。	2・通	100	2			○	○		○		
○		自動車検査実習	実習車両を使用して自動車検査作業について学びます。	2・前	56	1			○	○		○		
○		ビジネスマナー	就職活動に備え、将来の社会人として必要な知識・マナーを身につけます。	3・後	17	1	○			○		○		
○		安全管理	災害防止・防火・防災・救急処置について学びます。	3・後	34	2	○			○		○		
○		エンジン電子制御技術	ガソリンエンジンとディーゼルエンジンの最新電子制御について学びます。	3・前	34	2	○			○		○		
○		環境保全	資源の有効利用・産業廃棄物処理・汚染物質・工場騒音・工場振動に関する環境保全方法について学びます。	3・後	34	2	○			○		○		
○		高度エンジン整備技術	ガソリンエンジンとディーゼルエンジンの最新電子制御整備について学びます。	3・前	34	2	○			○		○		

○		高度シャシ整備技術	AT（オートマテイツクトランスミッション）・PS（パワーステアリング）等の最新の電子制御整備技術について学びます	3・前	34	2	○			○		○		
○		高度電装整備技術	高度なコンピュータ電子制御装置の整備について学びます。	3・後	34	2	○			○		○		
○		自動車検査技術	道路運送車両法の保安規準・自動車検査の詳細を学びます。	3・後	6	0	○			○		○		
○		自動車新技術	ハイブリッド車・CNG車・筒内噴射式エンジン・CVT・ブレーキ・スリップ・姿勢制御等の制御技術について学びます。	3・後	34	2	○			○		○		
○		自動車整備法規	自動車整備に関する法規及び通達の詳細について学びます。	3・後	12	0	○			○		○		
○		シャシ電子制御技術	AT（オートマテイツクトランスミッション）・PS（パワーステアリング）・ABS・オートAC（オート・エア・コンディショナ）等の電子制御について学びます。	3・前	34	2	○			○		○		
○		整備機器取扱技術	整備支援機器・高精度計測機器・自動車検査機器取り扱い方法を深く学びます。	3・前	17	1	○			○		○		
○		総合故障診断技術	最新の故障診断器を使用した振動・騒音を含めた複雑な故障診断技術について学びます。	3・後	34	2	○			○		○		
○		応用エンジン整備実習	電子制御技術搭載の実車のエンジンの点検・分解・組立・調整・検査を実習します。	3・前	156	4				○	○		○	
○		応用シャシ整備実習	電子制御技術搭載の実車のシャシの点検・分解・組立・調整・検査を実習します。	3・前	156	4				○	○		○	
○		応用電装整備実習	実車の電子制御装置の点検・分解・組立・調整・検査を実習します。	3・後	156	4				○	○		○	
○		応用自動車検査実習	自動車検査員レベルの検査実習をします。	3・後	23	4				○	○		○	
○		応用総合整備実習	最新技術搭載の実車を総合故障診断して整備する実習を行ないます。	3・後	156	4				○	○		○	
○		応用工作実習	手作業・旋盤・フライス盤・溶接などによる金属加工作業を実習します。	3・前	12	0				○	○		○	
○		応用測定実習	エンジン出力・駆動力やセンサの特性等の測定方法を実習します。	3・前	12	0				○	○		○	
○		国家1級合格講座	一級自動車整備士国家試験合格へ向けた講座です	4・前	17	1	○			○		○		
○		インターン実習	自動車の点検、整備、故障原因探求、総合診断の整備作業と接客実務を企業で実体験します。	4・前	223	6				○		○	○	
○		サービス・マネジメント	販売士・顧客管理・顧客対応技術・整備見積書作成技術について実習します。	4・前	167	5				○	○		○	
○		総合実務実習1	顧客管理、顧客対応技術、整備見積書作成技術について実習します。	4・前	67	2				○	○		○	
○		総合実務実習2	高効率整備作業マニュアル作成、高難度故障原因探求作業、総合診断作業を実習します。	4・後	545	16				○	○		○	
合計			56 科目	4109 単位時間(140 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等
------------	-------

卒業時に必修科目4109時間（140単位）取得すること	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	20 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。